

令和5年度 管内公立小中学校事務研修会

南予教育事務所
R5.12.13(水)

- 学校事務の共同実施をより効果的かつ効率的に行い、学校事務の適正化に努める。
- 教職員の働き方改革と学校運営体制の充実を図る。

上記課題に対応するため、学校事務職員等の資質・能力の向上を図り、学校教育の充実に資することを目的に、11月21日(火)南予地方局7階大会議室他にて管内公立小中学校事務研修会を実施しました。

開会行事では、藤原泰幸南予教育事務所長から、愛媛県公立小中学校事務研究大会等での若年事務職員の活躍に対し、労いの言葉をいただいた後、各々が持ち得ている知識等を十分に発揮し、管理職と連携を図りながら円滑な学校運営に寄与するよう指導していただきました。

全体会・分科会の様子と参会者の意見です。



1 全体会

テーマ「さらなる共同実施を進めるために」～指針を振り返り、あるべき姿を考える～



事務長会

学校事務の共同実施が平成18年度に県下6地域で始まって15年以上が経過する。その後、若年事務職員も増えたことから、共同実施の役割等について指針を振り返り、「VUCA」の時代の学校に私たち学校事務職員はどう関わっていくべきか、全体協議した。

【参会者の声】

○ 先行き不透明で予測困難な VUCA の時代を乗り越えていくためには、風通しのよい雰囲気を作り、一人一人が役割を果たせるよう意見を出し合い協力していくことが求められていると感じた。

○ 『子どもが行きたい学校』『保護者が行かせたい学校』『職員が働きたい学校』になるように、学校事務の面から考え改善できるようにしたい。まず、『職員が働きたい学校』にするために、「先生方へ依頼する事務処理を見極め最小限にする。」ことから始めていきたい。

○ 重点目標等を明確にし、そこに向かって室員全員で取り組み、共有できるような運営案にしたい。

○ 一人一人の役割を自覚し、実務能力を身に付ける。すべきこと、できること、変えなければいけないもの、変えてはいけないものを見極め、自ら進んで行動できる事務職員を目指したい。

○ 予測不可能な時代に対応していくために自分に必要なことを考えさせられる研修となった。自分が今求められている仕事ができているか、常に自問自答を繰り返しながら業務を進めていく必要があると感じた。

2 分科会

(1) 第1分科会【業務改善】



西予中央共同学校事務室

構成校の規模や地理的環境の課題、室員の若年化への対応等、日々の取組から改善につながった過程について発表する。

平城共同学校事務室

自身の働き方を見直すことで、共同学校事務室の負担軽減や教職員への業務改善につながった取組について発表する。

【参会者の声】

園構成校の見取り図のように、今あるものをうまく活用する視点が大事だと気付かされた。「見える化」を図ることにより構成校への情報提供の資料にもなり、担当者の負担軽減につながっている。

園「ムリ・ムダ・ムラ」が出ないように見通しを立てることが重要であるが、慣れが生じてくると「ムダ」に気付くことが難しくなる。時には、一度立ち止まって業務を振り返り、作業工程や確認作業を工夫することで時間を生み出し、作業効率を上げることにつなげていきたい。

園今は勤務校の業務で精一杯であり周りを見ることができていない。来年度からは周りを見て柔軟に対応できるようになるための努力を、少しずつ計画的に行っていきたいと思う。

園働き方改革の目的を業務縮小や時間短縮に置くのではなく、あくまでもそれを過程として捉え、その先にある教職員の働きがい、職能成長の実感など、やりがいや達成感を得ることに置きたい。

園業務改善とは、単に業務のやり方を変えたり、不必要な業務「ムダ」を減らしたりするだけではなく、組織内の状況を見て、時期的な業務の偏りを調整し「ムラ」を減らすことで、一人に対する負担「ムリ」を分散させることも含まれているという新たな視点を学ぶことができた。

(2) 第2分科会【人材育成】



城東共同学校事務室

多様な室員構成の中、チームを良くするために何をすべきか、主体的に考えることができる人材育成の実践について発表する。

伊方町西部共同学校事務室

小さなことからコツコツと、日常業務の中でスキルアップを図る。若年者だけでなく、みんなが共に成長する人材育成を考える。

【参会者の声】

園仕事の結果だけを見て一方的に評価するのではなく、過程における本人の努力や苦勞にも目を向け、それを労う声掛けを行いたい。

園少しのことで、未確定でも、「まず報告・連絡・相談」を実践していきたい。

園研修について、教えてもらうという考え方よりも、教える側も一緒に学ぶという考え方で臨んだ方が両者にとって有効であることを学んだ。

園共同実施の役割を果たすためには、事務処理能力を高めることが必要であることを再認識した。事務職員として学校のために行動するには、確かな実務力を身に付けておかなければ結果につながる

らないと感じている。

○「いろんなことを経験しなければ何も身に付かない。」「自分で考え、判断して、実行する。」という助言のとおり、全ての経験が糧になるよう導いていきたい。

(3) 第3分科会【情報管理・共有】



五十崎共同学校事務室

校務支援システム「ミライム」を活用した情報発信と情報収集・共有について発表し、情報管理の発展につなげる。

城北共同学校事務室

効果的な情報共有と活用について実践発表し、構成校との信頼関係や事務室の貢献度を高める方法について考える。

【参会者の声】

○自身が取り扱っている情報がどのような価値を持ち、どの情報が誰にどう必要であるかを常に意識し、事務室業務や学校運営がより円滑に行えるよう情報の提供や共有を行いたい。

○「何のために情報を共有しているのか。」目的を見失わないことが大切だと思う。

○共同実施の形態によって、悩みや問題点は異なるが、共通していることは、人と関わりながら、人と向き合いながら仕事しているということである。事務的な対応に陥らず、相手に合わせた話し方を心掛けることや、自分自身の人間力を磨くことが大切であることの共通理解を図ることができた。

○「知識の少なさから、誤った情報を流すことがあってはならない。」という助言があった。情報発信の際は、よく調べた上で責任を持ち行いたい。

○1つの情報から様々な場面を想像し、活用していくことの大切さも改めて感じた。

【地域長所感より】

○変化が激しい時代に応えるためには、新しい知識を習得し、資質を向上させ、新たな専門性を開拓していく必要があります。事務職員個々が学び続ける姿勢や向上心を持ち続けることが重要です。

○子どもにとっても社会にとっても学校は必要不可欠で、事務職員も必要です。それをどのようにしていくかは、我々にかかっていると云えます。よりよい学校づくりのために学校事務職員として、共同学校事務室として、できることを一つずつ行いましょう。

事務職員の業務改善のため、「振り返りシート」を無くしてほしいと時々言われるのですが、こんなすばらしい意見や考えの詰まった「振り返りシート」を無くすわけにはいかない、そんな思いのする今回の「振り返りシート」でした。

中には次の課題につながるこんな意見も..

教員の求めている負担軽減策と事務職員側が考える(共同実施で取り組むことのできる)ことに大きな乖離がある。また、事務職員の資質がそれに追いついていないという現実がある。

どうする?事務職員

お忙しい中、たくさんの貴重な意見、本当にありがとうございました。

